

「第1回専門委員会」に関する傍聴者の御意見と傍聴者の質問に対する回答など
【小島による意見分類】

氏名	御意見	質問に対する回答など
1 向井 貴彦	<p>① 藤田委員の治水についても議論を求める意見があったが、今本委員が意見されたように「河口堰は治水にとっては邪魔物でしかない」というのは、建設の経緯からも明らかです。治水のために行われたのは長良川の河床マウンドの撤去であり、その結果生じる可能性のある塩害防止のために潮止めを目的として河口堰が作られたはずですが、したがって、河口堰の効果や影響についての議論であれば、利水と環境（塩害の可能性も含めて）に焦点を絞るのは自明です。そうした前提を理解しておられない専門委員がおられることに驚きを感じます。</p> <p>【治水】</p> <p>② 村上委員による今後の作業の進め方の提案は、建設的で大変良かったと感じました。しかしながら、生態影響に関しては20年ほど前から変化のない古い感覚のままのようです。昨年生物多様性COP10を開催した愛知・名古屋において、漁業被害と健康被害しか視野に無いのは、大きな問題です。底生生物については、シジミにのみ注目されたがために漁業補償で解決したかのように語られる事が多かったと思います。しかし、汽水性のゴカイやカニ類の長良川での壊滅的な状況など、明らかな生態系の影響も重視すべきです。特に、「生態系サービス」や「生物多様性」の観点を適切に取り入れるのは、生物多様COP10において責任を持つべき立場となった愛知・名古屋に必然的に求められるものでしょう。</p> <p>【環境：生物】</p>	
2 池谷 武生	<p>河口堰の検証は概略以下の事項を明らかにすることである。</p> <p>(1) 河口堰建設時に検討した結果（予測）と現状との比較を行う。</p> <p>(2) 河口堰建設時に検討した結果（予測）と現状とのちがいの原因を究明する。</p> <p>(3) 河口堰建設時の検討で使用したデータを明らかにする。</p> <p>(4) 河口堰建設時の検討が正論である論拠(根拠)を明らかにする。</p> <p>(注) 検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長良川河口堰検証第1回専門委員会次第」の「資料4」2(2)参照。 ・国交省、水資源機構が発刊している冊子(たとえば「ながら」、パンフレット(たとえば「information」)に掲載された事項、掲載内容参照。 ・そもそも塩害は発生したのか(たとえば、高須輪中において) ・そもそも、淡水化する必要性(利水)はあったのか <p>【進め方】</p>	
3 平光 文男	<ul style="list-style-type: none"> ・専門委員とは、長良川河口堰をよく知る者からなるのが、正当だと思うが、部外者がまとめ役(?)とは、理解できない。 ・専門委員会のメンバーにPTメンバーが入ることは、第1回検証会において議論されたことが反映されてない! ・マニフェストは、開門調査はその与える代償を考えられてなく、絶対ではない。知事の発言どおり、最適な運用の検討とすべき。開門前提ではない! ・発言者は、氏名をはっきり言うべき。 ・専門委員会に関係のない識者(?)の名を出すことは是非 ・環境変化(悪化)について、専門的、科学的データの提示がないなかで、結論付ける専門委員の発言は不明。 <p>【進め方】</p>	<p><小島氏の回答></p> <p>長良川河口堰検証プロジェクトチームは、大村愛知県知事と河村名古屋市長の共同マニフェスト「長良川河口堰の開門調査」の実施に関して、既に長良川河口堰が存在していることを前提にして「県民にとって最適な長良川河口堰の運用のあり方について、広く関係者からの意見を聞くとともに、専門的見地からの意見の集約を行う」ことを目的としています。専門委員会は、PTにおいて議論し、PTメンバーのご意見をお聞きした上で構成をしています。専門委員会の座長は、PTとの連続性を考慮して小島が担当していますが、専門的事項の審議に当たっては専門家が取りまとめていただくことが適当ですので、今本委員に共同座長になっていただいています。なお、専門委員会の進め方は、科学的データに基づき、また、審議に資するよう傍聴者からも広く意見を求めて行う方向が示されています。</p>

4 和田 一	<ul style="list-style-type: none"> ・専門委員各位が、予断を持たないで議論していただきたいと思います。 ・明確な評価基準を持つべきと思います。 <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川に工作物を作れば、影響が出るのは当たり前の話です。 建設前には、この影響を予測し対応して来たはずですし、建設後(完成後)においてもモニタリングを実施し、公開で検証されて来ています。データも公表されています。データに基づいた、しっかりとした検証をお願いします。 <p>【影響→環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治水上の堰の役割がきちり理解されないで利水・環境は、ないと思います。 木曾三川下流域の歴史的経緯も含めた特性を理解する必要があると思います。 <p>【治水】</p>	
5		
6		
7		
8		